

## 「マイキンとハツキン」

主任司祭 晴佐久昌英

マイキンとは「毎週金曜日」の略称、ハツキンとは「月の初めの金曜日」の略称。どちらも高円寺教会で開かれている青年の集いである。

マイキンは主に高円寺教会の青年対象で、毎週金曜日の夜集まって、一緒に食事をし、語りあっている。食事は作ったり、持ち寄ったり。たまにはカップラーメンってこともあるが、鍋パーティーの日もあるし、豪華ディナーフルコースだった時もある。メニュー表まで用意してあって何ともゴージャスな夜だった。もっともこれは後にも先にも一度きりだったが。

ハツキンはより広く誰でもどうぞという「飲み会」で、毎月第一金曜日の夜、愉快地飲み、熱く語り合っている。友達が友達を呼び、多い時は百人近くになることもあり、そのまま泊まることもできるので、遠く九州、北海道から来るつわものもいる。夏は庭でバーベキュー、正月には餅つき、時に歌と演奏で熱気渦巻くライブ会場と化する夜もある。

何にせよ忙しい中、雨の日も風の日も、青年たちは実によく集まってくる。みんな、マイキンとハツキンが大好きなのである。それはつまり、そこが彼らの大切な「居場所」になっているということにはかならない。不寛容な家庭と不信仰な社会のはざまに、真に出会い、語り合い、受容し合える居場所に飢えている彼らは、教会とはすなわち魂の居場所なのだという福音の香りを、鋭く嗅ぎ取っている。

青年たちが集まって食っていると、どこからともなく「ただ集まってるだけじゃ無意味だ」「食ってるだけじゃなく、何か有益なことを」というような声も聞こえてくる。しかし、「集まって食う」のは人間の基本であり、家族の原点であり、教会の本質である。そもそもミサ自体が「集まって食う」ことではないか。マイキンとハツキンで、みんな実はイエスを食べているのだ。教会が若い世代の集まって食う場でなくなる時が、教会の衰退する時である。

この春、マイキンとハツキンに出入りする仲間たちから、六人の受洗者と、三人の神学生が誕生した。もっと集まってもっと食えば、もっと多くの実りが誕生するだろう。